



いかだは何のためにあるの

材木を運ぶためにいかだを組む

あなたは、いかだ遊びをしたことがありますか。全国で、川祭りのイベントとして、いかだレースが行われています。これは、川に親しみ、川をきれいにしようという、ねらいで行われるものです。

本物のいかだは、山で切り出した材木を輸送するために、川の上流で組み立て、下流の材木の集散地まで、川を下って行くものです。これを「いかだ流し」といいます。日本では、かつて、和歌山県、岐阜県、長野県などでさかんに行われていました。いかだには、こぎ手とかじ取りの人が、2～3人乗って動かしますが、とても危険な仕事でした。

最近、日本では、山のおくまで道路ができたので、トラックの輸送に切りかえられ、いかだ流しは、あまり見ることができなくなりました。

下流の集積所に集められたいかだは、いくつもつないで、船に引かれて、木材工場などに運ばれます。

簡単な船として使う

いかだは、簡単な船として使われることもあります。これを「いかだ船」といいます。このいかだ船は、魚をとるためや、輸送のためや、水上で生活をするためなどに使われます。

ロシアの大きな川では、住宅がほしいいかだが見られます。たくさんのいかだをつなぎ、大規模な木材輸送の方法として、今でも、使われています。（監修・青木 国夫）

